

雄大な雪景色。場所にこだわらず、大好きで、  
素材として、数多く、画像記録している。

中でも、「鐘が鳴る丘」と名付け、**産経新聞、毎週、「地球のかおり」**として、  
**長期間**、連載させていただいた。今でも、日常の活動、一十百千万、  
この数字の**十の意味**は、年齢、性別、国籍、関係なく、機会をつくって、コミュニケーション。

新しい人との出会いは、気づきと発見、体や心の訓練になる上に、大きな学びになる。  
出会いの節、話の花が咲けば、状況により、ホームページを紹介。資料をもらっていただく。  
ゴミとなることも多いだろうが、**決めるのは相手。一過性**だが、**新規開拓**という次第。そこで、  
ホームページ上にないことを、改めてご紹介するのも選択肢と思った次第。  
何事も、迷惑や傷をつけないなら、考えた上で、**即、実践**。

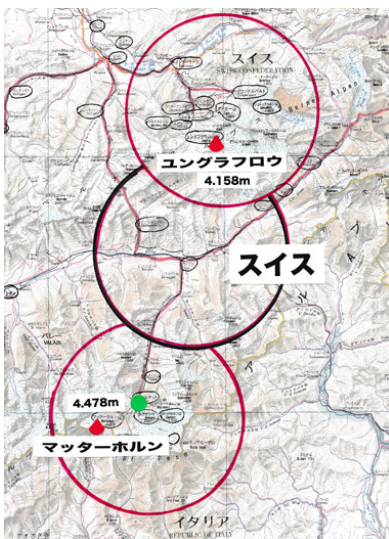


# 地球のかおり

2月、厳寒のスイス・アルプス。名も知らぬ小さな駅でなんとなく下車した。改札を出ると、ちょうどバスが出るところで、後先考えずに乗車。約1時間後、遠くに教会が見えた。その前を通り過ぎようというとき、突然思いだした。見たことがある、いや来たことがある。なんと、いや来たことがある。7年前の夏に訪れた村だ。またもや途中下車。肌を刺す寒さの中、あたたかさを感じた。

(夢絵作家 久樂迎古)

鐘が鳴る丘



場所は、マッターホルンとユングラフロウの中間。

## ～～山はみどり 野に花 人にはこころ～～

下記は、素材の写真と、純楮寒漉き和紙に表現した夢絵作品。

オリジナルではなくコピーだが、部屋に飾って、今も楽しんでいる「鐘の鳴る丘」  
強く印象に残った作品。いろいろ物語がある。



左は写真、下は和紙。画像不鮮明はご容赦。





下記写真は、上と同じ教会で、不鮮明だが、

ナポレオン時代の軍服で、教会にて、儀式が行われている最中の画像。

村の人たちは、黒い礼服にて参加。

私も厳粛な、不思議な体験をさせていただいた。まさに、いい思い出は、心の財産。

下記の画像、旅記録の表紙に、今も使用している。

